■　札幌ふるさとの樹木　■

その 15：ホオノキ（朴の木）・モクレン科

ホオの意は、
①(包)で食物を盛ったため。
②長い冬に芽をつけたまま、“ほほまった”状態で過ごすことから、つぼみのままの状態を形容する古語の「ほほむ」がホオとして使われた。

日本各地。適潤で地味の良いところに生える。花期は5～6 月。枝先に径 15cm ほどの芳香の強い白い花をつける。花序は頂生。葉序は互生。花の大きさは北海道で最も大きい。軟材で加工しやすく狂いがない。木版や細工。

白い糸状の珠柄でぶら下がる。小鳥についばんでもらい、別の場所で糞とともに未消化の種子が落され、そこで芽を出し、子孫が残される。